

## 要約練習用文献リスト

- 新井紀子 (2018). 『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』 東洋経済新報社
- バトラー後藤裕子 (2015). 『英語学習は早いほど良いのか』 岩波新書
- 藤井青銅 (2023). 『国会話法の正体—政界に巣くう怪しいレトリック』 柏書房
- 藤永 保 (2001). 『ことばはどこで育つか』 大修館書店
- 羽生善治 (2005). 『決断力』 角川書店
- ハンセン、A. (2021). 『スマホ脳』 新潮新書
- 橋本健二 (2018). 『新・日本の階級社会』 講談社新書
- 広田照幸 (2022). 『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』 ちくまプリマー新書
- 一川 誠 (2016). 『時間の使い方を科学する』 PHP 新書
- 市川伸一 (2013). 『勉強法の科学—心理学から学習を探る』 岩波書店
- 飯山 陽 (2021). 『イスラム教再考』 扶桑社 BOOKS 新書
- 池上 彰 (2002). 『大人も子どももわかるイスラム世界の「大疑問」』 講談社+新書
- 池上 彰 (2007). 『そうだったのか！現代史』 集英社
- 池上 彰 (2021). 『知らないと恥をかく世界の大问题 12』 角川新書
- 池上 彰 (2022). 『20歳の自分に教えたいお金の基本』 SB 新書
- 池上 彰、佐藤 優 (2015). 『大世界史—現代を生き抜く最強の教科書』 文芸春秋
- 池谷裕二 (2006). 『脳はなにかと言いつける』 祥伝社
- 池谷裕二 (2012). 『脳には妙なクセがある』 扶桑社
- 池谷裕二 (2013). 『単純な脳、複雑な「私」』 講談社
- 今井むつみ (2016). 『学びとは何か—探究人になるために』 岩波新書
- 門倉貴史 (2010). 『本当は嘘つきな統計数字』 幻冬舎新書
- 苅谷剛彦 (2012). 『アメリカの大学・ニッポンの大学』 中公新書ラクレ
- 苅谷剛彦 (2012). 『イギリスの大学・ニッポンの大学』 中公新書ラクレ
- 苅谷剛彦 (2020). 『コロナ後の教育へ—オックスフォードからの提唱』 中公新書ラクレ
- 刈谷剛彦、増田ユリヤ (2006). 『欲ばり過ぎるニッポンの教育』 講談社現代新書
- 加藤陽子 (2009). 『それでも日本人は「戦争」を選んだ』 朝日出版社
- 河合雅司 (2018). 『未来の年表—人口減少日本でこれから起きること』 講談社新書
- 河合雅司 (2020). 『「2020」年後—新しい日本の話をしよう』 講談社
- 川島隆太 (2018). 『スマホが学力を破壊する』 集英社新書
- 北野良子 (2017). 『論理的思考力を鍛える 33 の思考実験』 彩図社
- 児玉光雄 (2006). 『なぜモチベーションが上がらないのか』 ソフトバンク新書

- 久保田竜子 (2018). 『英語教育幻想』 ちくま新書
- 久米昭元、長谷川典子 (2007). 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』 有斐閣
- 前野ウルド浩太郎 (2017). 『バッタを倒しにアフリカへ』 光文社新書
- 前坂俊之 (2010). 『明治三七年のインテリジェンス外交』 祥伝社
- 松岡亮二 (2009). 『教育格差—階層・地域・学歴』 ちくま新書
- メイナード、K. 泉子 (2009). 『ていうか、やっぱり日本語だよ。』 大修館書店
- 三木那由他 (2022). 『会話を哲学する—コミュニケーションとマニピュレーション』 光文社新書
- 内藤正典 (2012). 『イスラームから世界を見る』 ちくまプライマリー新書
- 中村圭志 (2010). 『教養として学んでおきたい5大宗教』 マイナビ新書
- 中田 考 (2017). 『イスラーム入門』 集英社新書
- 行方昭夫 (2014). 『英会話不要論』 文春新書
- 中室牧子、津川友介 (2011). 『原因と結果の経済学』 ダイアモンド社
- 21世紀研究会 (2003). 『色彩の世界地図』 文藝春秋
- 西林克彦 (2005). 『わかったつもり—読解力がつかない本当の原因』 光文社新書
- 西野仁雄 (2008). 『イチローの脳を科学する—なぜ彼だけがあれほど打てるのか』 冬幻舎
- 岡田昭人 (2019). 『オックスフォードの学び方』 朝日文庫
- 岡田斗司夫 (2007). 『「世界征服」は可能か?』 ちくまプライマリー新書
- 岡本浩一 (2002). 『上達の法則—効率のよい努力を科学する』 PHP 新書
- 斎藤 孝 (2001). 『「できる人」はどこがちがうのか』 ちくま新書
- 斎藤 孝 (2006). 『質問力』 ちくま文庫
- 斎藤 孝 (2006). 『段取り力』 ちくま文庫
- 斎藤 孝 (2015). 『語彙力こそが教養である』 KADOKAWA
- 酒井邦嘉 (2011). 『脳を創る読書』 実業之日本社
- 三森ゆりか (2003). 『外国語を身につけるための日本語レッスン』 白水社
- 更科 功 (2018). 『絶滅の人類史—なぜ「私たち」が生き延びたのか』 NHK 出版
- 更科 功 (2022). 『ヒトはなぜ死ぬ運命にあるのか』 新潮選書
- 佐々木紀彦 (2011). 『米国製エリートは本当にすごいのか?』 東洋経済新報社
- 渋谷昌三 (2014). 『電車の中を10倍楽しむ心理学』 育鵬社
- 白井恭弘 (2008). 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』 岩波新書
- 鈴木宏昭 (2022). 『私たちはどう学んでいるのか』 ちくまプリマー新書
- 橘木俊詔 (2010). 『灘校—なぜ日本一で有り続けるのか』 光文社新書
- 谷口一郎 (2007). 『データはウソをつく—科学的な社会調査の方法』 ちくま書房
- 竹内 薫 (2006). 『99.9%は仮説—思い込みで判断しないための考え方』 光文社新書

- 竹内 理 (2007). 『達人の英語学習法—データが語る効果的な外国語習得法とは』 草思社
- 瀧本哲史 (2011). 『僕は君たちに武器を配りたい』 講談社
- 瀧本哲史 (2016). 『ミライの授業』 講談社
- 瀧本哲史 (2020). 『2020年6月30日またここで会おう』 星海社新書
- 寺沢拓敬 (2015). 『日本人と英語の社会学』 研究社
- 外山滋比古 (1986). 『思考の整理学』 ちくま文庫
- 上杉勇司 (2023). 『どうすれば争いを止められるのか—17歳からの紛争解決学』 WAVE 出版
- 山岸俊男、M.C. ブリントン (2010). 『リスクに背を向ける日本人』 講談社新書
- 吉田新一郎 (2006). 『テストだけでは測れない！—人を伸ばす「評価」とは』 NHK 出版
- 好井裕明 (2006). 『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス』 中公新書